



学習指導案作成のポイント

実態把握

学習内容に関する児童生徒の実態把握

- 具体的な資料（ノートや作品等）に基づいて実態把握をする。
- 意識調査、レディネステスト、プレテスト等活用して客観的に実態把握をする。
- 学級全体だけでなく、個々の児童生徒にも焦点を当てた実態把握をする。

単元の目標

- 学習指導要領に示された目標や内容を確認する。
- 系統性や前後の単元、他教科とのかかわりを確認する。

本時の目標

先生の視点

- 単元の目標に即して、本時で身に付けたいことを明確にする。
- 「本時では」を意識して、具体的に設定する。

学習課題(めあて)

児童生徒の視点

- 児童生徒がその時間で何をするのか具体的に。
- 本時の目標に即したものに。
- 興味・関心や問題意識、必要感が高まるものに。
- まとめでの子供の**ことば**をイメージする。

・児童生徒の生活体験や経験と結びつける
・これまでの学習と比較する
・実物を提示する など

活動

- 学習課題（めあて）を達成するための活動にする。
- 児童生徒の実態に合った活動にする。

・言語活動の場面はある？
・アクティブラーニング等の場面はある？

評価

児童生徒の成長と変容を見取る評価（実際に評価できる1, 2つの観点）

- 本時の目標を確認し、評価規準を設定する。
- 具体的な評価方法を設定する。

・観察評価
・ノート等による評価
・補助簿、座席表の活用 など

支援

指導と評価の一体化

- B評価に達しない者への**具体的な**支援の手立てを設定する
- A評価の者をさらに伸ばす**具体的な**手立てを設定する。

・できるだけ具体的に
◎ノートを見直して前時に解いた問題を再度思い出させる
△ノートを見直させる

まとめ

学習の振り返り

- めあて（課題）に立ち返って正対したまとめにする。
- 子供のことば**によるまとめを記載する！

・「本時のねらいは〇〇でしたが、どうでしたか？」
・「なにができるようになったのかな？」